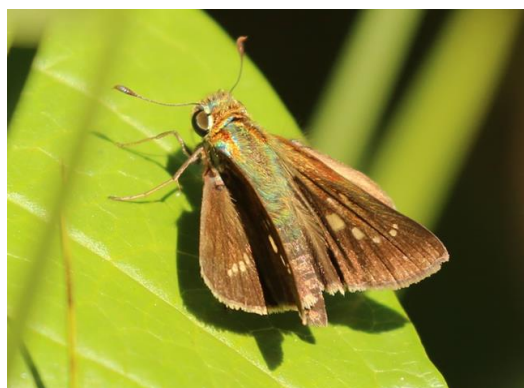


中野マルイ「四季の庭・水辺の庭」 生物多様性調査報告書／2024 秋期編



目次

1. 調査の概要	・ ・ ・ ・ ・	P2
2. 調査結果	・ ・ ・ ・ ・	P2
I. 昆虫類	・ ・ ・ ・ ・	P3
II. 鳥類	・ ・ ・ ・ ・	P8
III. その他の生きもの	・ ・ ・ ・ ・	P10
IV. 開花結実植物	・ ・ ・ ・ ・	P12
3. 解析評価	・ ・ ・ ・ ・	P13
4. 2024年度の環境保全イベントの報告	・ ・ ・ ・ ・	P15
5. より多くの生きものに利用される「四季の庭・水辺の庭」を目指して	・ ・	P16

1. 調査の概要

調査目的

- ・中野マルイのビル緑地である「四季の庭・水辺の庭」が、地域の生物多様性の向上にどのように関わっているのか、また、生きものの移動の中継地点（緑の回廊）として機能しているかについて、定期的に評価を行います。
- ・得られた調査データを元に、保全の対象とする生物種を選定するなど、「四季の庭・水辺の庭」の生物多様性がより向上するための取り組みに活用します。

調査方法

調 査 地：中野マルイ 「四季の庭・水辺の庭」及びその周辺 300m内の緑地

調査対象：鳥類、チョウ・トンボ・バッタ類等の大型昆虫類を中心に、姿・声・行動等を確認しました。両生類、は虫類、魚類、ほ乳類等は適宜調査を行いました。
植生は開花状況、結実状況等を確認しました。

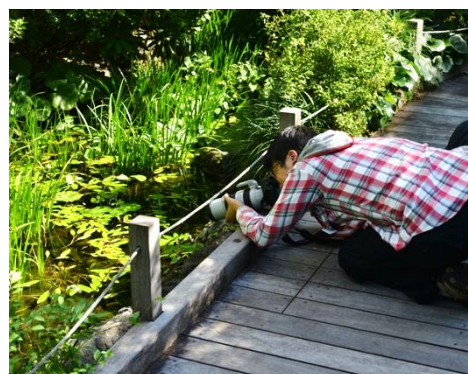
調査方法：早朝 ● 7:00 ～ 8:00 「四季の庭・水辺の庭」調査 鳥類中心
● 8:00 ～ 9:00 周辺緑地の調査 鳥類中心
午前 ● 10:00 ～ 11:00 「四季の庭・水辺の庭」調査 昆虫・植生
● 11:00 ～ 12:00 周辺緑地の調査 昆虫中心
午後 ● 13:00 ～ 14:00 「四季の庭・水辺の庭」調査 植生中心

2. 調査結果

調査日程：2024年10月12日 7:00～14:00 晴れ

調査結果：確認種の一覧は、表-1～4 参照

	2023年秋期	2024年秋期
昆虫類	10目 36科 54種 ⇨	9目 33科 48種
鳥 類	3目 8科 11種 ⇨	2目 7科 8種
その他	6目 12科 16種 ⇨	4目 10科 15種
開花植物	19科 27種 ⇨	20科 24種



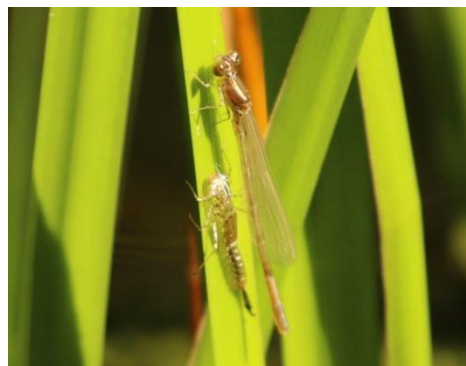
I. 昆虫類

* は初記録

1) 「四季の庭・水辺の庭」エリア 24科 34種 (表-1.1~1.2)

「四季の庭・水辺の庭」エリアでは、24科 28種 (昨年度：24科 34種) の昆虫類が確認されました (表-1.1)。周辺エリアを含めて記録された全 48 種のうちの 71% が本エリアで確認されました。

トンボ類はクロイトトンボ、アキアカネの 2 種が確認されました。このうち、クロイトトンボについては羽化直後の個体も複数確認されるなど、「水辺の庭」の水辺で繁殖している様子が確認されました。



羽化直後のクロイトトンボ

カマキリ類では、オオカマキリが記録されました。過去には木の上に棲むことが多い、樹上性のハラビロカマキリが確認されていましたが、草地環境を好むオオカマキリが確認されたのは本調査では初めてです。

バッタ類では、昨年度と同様、木の上に棲むコオロギの仲間であるカネタタキや、様々な植物を採食するオンブバッタが確認されました。なお、昨年度確認されたコバネイナゴは確認できませんでした。



オオカマキリ

チョウ類はイチモンジセセリ、ナミアゲハ、アオスジアゲハ、キタキチョウ、ウラギンシジミ、ヤマトシジミの 6 種が確認されました。そのうちアオスジアゲハについては、「水辺の庭」で幼虫が確認されています。その他の種類に関しては、植物の葉の上で一時的に止まる姿が見られたのみで、吸蜜する姿などは確認できませんでした。

ハエ類では、花の蜜や花粉を好むホソヒラタアブやツマグロキンバエなどが確認できましたが、チョウ類と同様、花を吸蜜している姿は見られませんでした。

コウチュウ類では、植物を吸汁するアブラムシを採食するナミテントウや、葉につく「うどんこ病菌」を採食するキイロテントウなどが確認されました。

ハチ類では、ツツジ類の葉に産卵するルリチュウレンジなどのハチが確認されましたが、昨年度に引き続き、花を訪れるミツバチ類やツチバチ類は確認することができませんでした。

13 カ年の調査では、51 科 121 種が記録されています (表-1.2)。特に多く確認されたのがチョウ目の 41 種で、うち 12 種が「四季の庭・水辺の庭」内での繁殖が確認されました。次いでコウチュウ目が 22 種、ハチ目が 19 種でした。

2) 産業振興センターエリア 9科10種(表-1.1)

中野駅の東側にある区立の施設です。ケヤキ、クスノキ等の高木からなる広場のほか、南側にはやや開けた草地があります。

昆虫類では、9科10種(昨年度:15科15種)の昆虫類が観察されました(表-1.1)。

産業振興センターの敷地内では、クスノキの大木でアオスジアゲハの幼虫が確認されました。その他のチョウ類では、昨年度に引き続き日陰環境を好むヒメジャノメが確認されました。

トンボ目では、東京都レッドリスト(区部)絶滅危惧ⅠA類(CR)に指定されているオツネントンボが3年連続で記録されました。



アオスジアゲハ幼虫



オツネントンボ

東京都RL:絶滅危惧ⅠA類(CR)

3) 桃園町会エリア 14科20種(表-1.1)

「四季の庭・水辺の庭」の西側につながり、直近の商業地以外は閑静な住宅地です。古い宅地には高木が茂り、囲桃園公園にはソメイヨシノの高木と、吸蜜植物となる花壇植栽があります。街路沿いは「まちなか緑化」の実施プログラムの対象地区であったため、樹木の移植が行われるなど、街中に小規模な緑地が点在しています。

昆虫類では14科20種(昨年:16科21種)が確認されました(表-1.1)。トンボ類・カマキリ類は、前回の調査では確認されたものの、今回の調査では確認されませんでした。

チョウ類では、囲桃園公園に咲いているフヨウの花に、イチモンジセセリ、チャバネセセリ、ウラナミシジミなどのチョウ類が飛来し、吸蜜する姿が確認できました。

その他、アブラムシを採食するダンダラテントウやナミテントウなどが見られたほか、花壇で吸蜜するキムネクマバチなどが確認されました。



ウラナミシジミ



ダンダラテントウ

表-1.1 現地調査時に確認した動物類の一覧 (2024.10.12)

表－1.1 現地調査時に確認した動物類の一覧（2024.10.12）				塗りつぶし部分は四季の庭・水辺の庭エリア					
分類群	目名	科名	調査エリア名称	① 四季の 庭・水 辺の庭	② 産業 振興セ ンター	③ 桃園 町会エ リア	確 認 箇 所 数	東 京 都 R L	環 境 省 R L
			種名						
昆虫類	トンボ	アオイトトンボ	オツネトンボ		●		1	CR	
		イトトンボ	クロイトトンボ	●			1		
		トンボ	アキアカネ	●			1		
	ゴキブリ	ゴキブリ	クロゴキブリ		●		1		
	カマキリ	カマキリ	オオカマキリ	●			1		
	バッタ	コオロギ	ツツレサセコオロギ			●	1		
		カネタタキ	カネタタキ	●	●		2		
		オンブバッタ	オンブバッタ	●			1		
	カメムシ	ヘリカメムシ	ホオズキカメムシ			●	1		
		イトカメムシ	イトカメムシ	●			1		
		カメムシ	キマダラカメムシ			●	1		
			クサギカメムシ	●			1		
	チョウ	マダラガ	タケノホソクロバ	●			1		
		セセリチョウ	イチモンジセセリ	●		●	2		
			チャバネセセリ			●	1		
		アゲハチョウ	ナミアゲハ	●		●	2		
			アオスジアゲハ	●	●		2		
		シロチョウ	キタキチョウ	●			1		
		シジミチョウ	ウラギンシジミ	●			1		
			ウラナミシジミ			●	1		
			ヤマトシジミ	●	●	●	3		
		タテハチョウ	ツマグロヒョウモン		●	●	2		
			ヒメジャノメ		●		1		
		トリバガ	トリバガ科の一種	●			1		
		ツトガ	マエアカスカシノメイガ		●		1		
		スズメガ	オオスカシバ	●			1		
			ホシホウジャク			●	1		
	モモスズメ			●		1			
	ハエ	ハナアブ	ホソヒラタアブ	●			1		
			キゴシハナアブ			●	1		
		ミバエ	ミスジミバエ	●			1		
		クロバエ	キンバエ属の一種	●			1		
			ツマグロキンバエ	●			1		
コウチュウ	ニクバエ	ニクバエ科の一種			●	1			
	テントウムシ	ナミテントウ	●		●	2			
		キイロテントウ	●		●	2			
		ダンダラテントウ			●	1			
		モンクチビルテントウ			●	1			
	ハムシ	ウリハムシ			●	1			
		クロウリハムシ	●			1			
		ルリマルノミハムシ			●	1			
ゾウムシ	スグリゾウムシ	●			1				
ハチ	ミフシハバチ	ルリチュウレンジ	●			1			
	ヒメバチ	ヒメバチ科の一種	●			1			
	アリ	クロオオアリ	●		●	2			
	スズメバチ	コガタスズメバチ	●			1			
	ツチバチ	キンケハラナガツチバチ		●		1			
	ミツバチ	キムネクマバチ			●	1			
	9	33	48	28	10	20	1	0	
総確認種数				9目33科48種					

凡例 「●」 現地で確認 「★」 死体・痕跡などを確認 「△」 ヒアリングでの確認

※種名や掲載順については、「日本産野生生物目録（環境庁編）」に従いました。

RL: レッドリスト CR: 絶滅危惧種 IA類

表-1.2 13カ年に確認した動物類の一覧 1/2 (2012.06.07~2024.10.12)

塗りつぶし部分は初記録の種

分類群	目 名	科 名	種 名	調 査 年												確 認 回 数	備 考				
				2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年			2024年			
				夏	夏	夏	夏	夏	夏	夏	夏	秋	秋	秋	秋			秋			
昆虫類	トンボ	イトトンボ	クロイトトンボ												●	●	3				
			アジアイトトンボ						●									1			
		ヤンマ	ギンヤンマ								幼							1	幼：ヤゴを確認		
			クロスジギンヤンマ				幼											1	幼：ヤゴを確認		
		トンボ	ナツアカネ														●		1		
			ノシメトンボ	●															1		
			アキアカネ												●	●	●		3		
			ウスバキトンボ	●			●	●		●	●					●			6		
			シオカラトンボ	●	●	●	●	●	●	●	●								7		
			オオシオカラトンボ	●	●	●	●	●											5		
	クロゴキブリ														△			1			
	ゴキブリ	ゴキブリ	クロゴキブリ															1			
	カマキリ	カマキリ	ハラビロカマキリ											●				1			
			オオカマキリ														●	1			
	バッタ	コオロギ	ハラオカメコオロギ	●	●			●					●						4		
			ツツレサセコオロギ												●				1		
		カナタタキ	カナタタキ		●	●	●	●		●			●	●	●	●	●		10		
			オンブバッタ	●		●	●	●	●			●	●	●	●	●	●		11		
		バッタ	コバネイナゴ														△		1		
	カメムシ	ゲンバイウンカ	ミドリゲンバイウンカ							●				●	●	●			4		
			アブラゼミ		★	●				●									3		
			ミンミンゼミ		●	●			●	●									4		
			ニイニイゼミ					●											1		
		ヨコバイ	ツマグロオオヨコバイ		●	●							●	●	●				5		
		ゲンバユスデ	エグリゲンバイ						●				●	●	●				1		
			ツツジゲンバイ							●									1		
		イトカメムシ	イトカメムシ						●	●	●	●	●	●		●			7		
			ヒメイトカメムシ										●	●					2		
		ナガカメムシ	ヒメナガカメムシ										●						1		
			キマダラカメムシ												●				1		
		カメムシ	クサギカメムシ										●	●	●	●	●		5		
			チャバネアオカメムシ										●						1		
		アミメカゲロウ チョウ	クサカゲロウ	クサカゲロウ科の一種		●														1	
				ミノガ							●					●				2	
			ミノガ	オオミノガ				●	●											2	
				ニトベミノガ			●													1	
			イラガ	ヒロヘリアオイラガ										●			幼			2	幼：幼虫を確認
	マダラガ															幼	幼	幼	2	幼：幼虫を確認	
	マダラガ		ブドウスカシクロバ	●															1		
			キマダラセセリ		●	●													2		
			イチモンジセセリ	●	●	●	●			●				●	△	●			8		
			チャバネセセリ									●							1		
	アゲハチョウ		クローアゲハ		●										幼	幼			3	幼：幼虫を確認	
			ナガサキアゲハ							幼									1	幼：幼虫を確認	
			ナミアゲハ	●	●	●	幼		●						△	●			7	幼：幼虫を確認	
			キアゲハ												△				1		
			アオスジアゲハ		●			●	●	幼	●	幼	●		●	●			9	幼：幼虫を確認	
	シロチョウ		キタキチョウ		●	●										●	●		3		
			モンシロチョウ	●	●	●													3		
	シジミチョウ		ウラギンシジミ														●		1		
ムラサキツバメ									●									1			
タテハチョウ	ヤマトシジミ		●	●	●	●	●	●	●	●			●	●	●			11			
	アサギマダラ														△			1			
	ツマグロヒョウモン			●	●					●		●						4			
	コミスジ			●	●													2			
	ルリタテハ			●														1			
	アカボシゴマダラ			●														1	特定外来生物		
	ヒメジャノメ											●						1			
	トリバガ		トリバガ科の一種													●		1			
ジャクガ	ユウマダラエダシャク											●						1			
	ヨモギエダシャク											幼						1	幼：幼虫を確認		
	クサアオシャク											幼						1	幼：幼虫を確認		
	オオミスアオ		●									幼						2	絶滅危惧Ⅱ類（VU）		
	ホシホウジャク	ホシホウジャク											●					1			
		オオスカシバ		●	●	幼	●	●		●	幼	●		幼	幼			10	幼：幼虫を確認		
		モモスズメ			●													1			
		シモフリスズメ												幼				1	幼：幼虫を確認		
		ピロードスズメ							●									1			
	セスジスズメ	セスジスズメ								●					幼			1	幼：幼虫を確認		
		モンクロヤチホコ												△				1			
		ドクガ	●															1			
ヤガ	ベニモンアオリンガ									幼							1	幼：幼虫を確認			
	トビイロトラガ		●														1				
ハエ	ムシヒキアブ	ヤガ科の一種											●				1				
		シオヤアブ			●		●						●					2			
	ハナアブ	ホソヒラタアブ			●						●	●	●		●		5				
		アシプトハナアブ	●															1			
	ヤチバエ	ヒゲナガヤチバエ												●			1				
		ミスジミバエ													●	●	1				
	ミバエ	キンバエ属の一種													●	●	1				
		ツマグロキンバエ													●	●	1				

凡例 「●」現地で確認 「★」死体・痕跡などを確認 「△」ヒアリングでの確認
 ※種名や掲載順については、「日本産野生生物目録（環境庁編）」に従いました。

表-1.2 13カ年に確認した動物類の一覧 2/2 (2012.06.07~2024.10.12)

塗りつぶし部分は初記録の種

分類群	目 名	科 名	種 名	調 査 年												確認回数	備 考
				2012年 夏	2013年 夏	2014年 夏	2015年 夏	2016年 夏	2017年 夏	2018年 夏	2019年 夏	2020年 秋	2021年 秋	2022年 秋	2023年 秋	2024年 秋	
昆虫類	コウチュウ	コガネムシ	アオドウガネ	●	●	●	●				●						5
			ビロウドコガネ						●								1
			ヒメビロウドコガネ												●		1
		テントウムシ	カナブン	★													1
			ヒメアカホシテントウ						●								1
			ムツボシテントウ									●					1
			ニジュウヤホシテントウ						●								1
			ナミテントウ													●	1
			キイロテントウ						●			●	●		●		4
			ダンドラテントウ						●			●			●		3
			モンクチビルテントウ									●			●		1
		ハムシダマシ カミキリムシ	ハムシダマシ										●	●			2
			キマダラカミキリ									●					1
		ハムシ	キボシカミキリ												●		1
			テントウノミハムシ												●		1
			ハリグロテントウノミハムシ								●						1
			クロウリハムシ	●	●	●	●	●	●			●		●	●		9
			ムシクソハムシ						●	●							2
		ゾウムシ	ルリクビボソハムシ												●		1
			サンゴジュハムシ		●		●	●	●								4
			ハスジカイツオゾウムシ					●									1
			スグリゾウムシ								●			●	●		3
		ハチ	ミフシハバチ	●	●		●			●	幼	●		●	●		8
			シモツケマルハバチ	幼													1
			ヒメバチ												●		1
			アリ									●					1
			トビイロケアリ									●					1
			アメイロアリ									●					1
			クロオオアリ												●		1
			セグロアシナガバチ		●	●		●		●	●						5
			コアシナガバチ	●													1
			コガタスズメバチ									●		●	●		3
			ヒメハラナガツチバチ	●			●	●		●	●						5
			キンケハラナガツチバチ		●												1
			コモンツチバチ				●	●									2
			キオビツチバチ				●	●									2
			ハキリバチ						●								1
			ミツバチ	●													1
			コマルハナバチ	●													1
			ニホンミツバチ		●												1
			セイヨウミツバチ										●				1
総計	10	51	121	23	29	24	17	19	18	22	11	21	22	21	34	28	

凡例 「●」現地で確認 「★」死体・痕跡などを確認 「△」ヒアリングでの確認

※種名や掲載順については、「日本産野生生物目録（環境庁編）」に従いました。

Ⅱ. 鳥類

1) 「四季の庭・水辺の庭」エリア 4科5種（表-2.1、表-2.2）

エリア内では、カワラバト（ドバト）、ハシブトガラス、キジバト、ヒヨドリ、スズメの4科5種（昨年度：6科7種）が確認され（表-2.1）、周辺エリアを含めて記録された全11種のうちの63%が記録されました。

キジバトは「水辺の庭」で確認されました。キジバトはこれまでに何度か営巣が確認されていますが、今回の調査でもドバトかキジバトが営巣した痕跡は確認できました。

ヒヨドリ、スズメについても「水辺の庭」周辺で確認され、付近のマンション緑地と「水辺の庭」を行き来する姿が確認されました。昨年度はヒヨドリの巣が確認されましたが、今回は確認できませんでした。

13カ年の調査では、10科10種が記録されました（表-2.2）。キジバトやヒヨドリについては、ほぼ毎年確認されるなど、生息地として「四季の庭・水辺の庭」を利用しています。昨年度ヒアリング調査で初めて記録されたイソヒヨドリは、今年度は確認されませんでした。なわばりをもつ鳥なので、中野マルイの近隣に定着をしていれば、再び飛来する可能性もあります。



キジバトかドバトの巣

2) 産業振興センターエリア 3科3種（表-2.1）

鳥類では、キジバト、ヒヨドリ、メジロの3科3種（昨年度：4科5種）が確認されました（表-2.1）。前回調査は夏の渡り鳥が山地から平野部に移動する9月に行ったため、ヒタキ類などが確認できましたが、今回は渡りの時期に当たらなかったためか、都市部でよく見られる鳥類のみが確認されました。



キジバト

3) 桃園町会エリア 6科6種 (表-2.1)

* は初記録

鳥類ではキジバト、モズ、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、スズメの6科6種 (昨年:4科4種) が確認されました (表-2.1)。これらの種のほとんどは都市部において通年で見られる種ですが、東京都レッドリスト (区部) 絶滅危惧ⅠA類 (CR) に指定されているモズが見られました。なお、確認された個体の多くは、囲桃園公園の敷地内で確認されました。



モズ

東京都 RL: 絶滅危惧ⅠA類 (CR)

表-2.1 現地調査時に確認した動物類の一覧 (2024.10.12) 塗りつぶし部分は四季の庭・水辺の庭エリア

分類群	目名	科名	種名	調査エリア名	①四季の庭・水辺の庭	②産業振興センター	③桃園町会エリア	確認箇所数	東京都RL	環境省RL
鳥類	ハト	ハト	カワラバト（ドバト）		●			1		
			キジバト		●	●	3			
	スズメ	モズ	モズ				●	1	CR	
			カラス				●	1		
			シジュウカラ				●	1		
			ヒヨドリ		●	●	3			
			メジロ		●	●	2			
			スズメ		●	●	2			
	2	7	8	5	3	6		1	0	
総確認種数				2目7科8種						

凡例 「●」 現地で確認 「★」 死体・痕跡などを確認 「△」 ヒアリングでの確認
※種名や掲載順については、「日本産野生生物目録 (環境庁編)」に従いました。
RL: レッドリスト CR: 絶滅危惧種ⅠA類

表-2.2 13カ年に確認した動物類の一覧 (2012.06.07~2024.10.12) 塗りつぶし部分は初記録の種

分類群	目 名	科 名	種 名	調 査 年												確認回数	備 考		
				2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年			2024年	
				夏	夏	夏	夏	夏	夏	夏	夏	秋	秋	秋	秋			秋	
鳥類	ハト	ハト	キジバト	○	○	●	●	●	●		●			●	●	●	10	上空通過	
	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ												●	●	1		
	スズメ	カラス	ハシブトガラス				●	●							●	●	4		
		シジュウカラ	シジュウカラ	●	○		●	●				●			●		6		
		ヒヨドリ	ヒヨドリ	○	○	●			●	●	●	●	●	●	●	●	11		
		メジロ	メジロ		○					●	●		●		○		5		
		ヒタキ	イソヒヨドリ												△		1		
		スズメ	スズメ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		○	●	12		
		セキレイ	ハクセキレイ		○						●				○		3		
		アトリ	カワラヒワ							●							1		
総計		3	10	10	4	6	3	4	4	3	4	4	4	3	2	9	4		
	ハト	ハト	カワラバト				●	●	●		●	●	●	●		●	●	8	外来種

凡例 「●」 現地で確認 「★」 死体・痕跡などを確認 「△」 ヒアリングでの確認 「○」 冬春期調査で確認
※種名や掲載順については、「日本産野生生物目録 (環境庁編)」に従いました。

Ⅲ. その他の生きもの

1) 「四季の庭・水辺の庭」エリア (表-3.1~3.2)

* は初記録

クモ類では、ジグモ、ゴミグモ、ジョロウグモ、ヒメグモ、アオオビハエトリ、ヤサガタアシナガグモなど、5科10種(昨年:2科5種)類が確認されました(表-3.1)。周辺エリアを含めて記録された全11種のうちの91%が記録されました。

13カ年の調査で見ると、これまでで最も多くのクモ類が確認されています。秋はクモ類が成体になる時期なので、これまでよりも多くのクモ類が確認されたと考えられます。また、国道の大通り沿いに面する樹木の選定が行われたことで風通しがよくなり、クモの獲物である小昆虫類の移入や、クモの幼体が糸を使い、風に乗って拡散する「バルーニング」による飛来が多くなったため、クモ類が多くなったと考えられます。



ヤサガタアシナガグモ

水域ではこれまでと同様に、カワニナ、モツゴ、シマドジョウ、キタメダカが確認されました(表-3.1)。モツゴ、キタメダカ、については稚魚も確認されたため、「水辺の庭」で安定的に繁殖していることが分かりました。

なお、昨年度ヒアリングで報告されたアズマヒキガエルやニホンヤモリについては、今回は確認できませんでした。両種とも夜行性であるため、昼間の調査で確認はできませんでしたが、引き続き「水辺の庭」周辺で生息している可能性があります。

2) 産業振興センターエリア (表-3.1)

エリア内では、クモ類のギンメッキゴミグモ、アダンソンハエトリの2種が確認されました(表-3.1)。本エリアは樹林地が広がるものの、林床部はほとんど裸地で、草地環境が僅かであるため、クモ類が少なかったと考えられます。

3) 桃園町会エリア(表-3.1)

エリア内では、ササグモの1種のみ確認されました(表-3.1)。昨年度は4種のクモ類が確認されましたが、今回の調査では因桃園公園内の草地が除草されていたことが、種数の減少に影響していると考えられます。

表-3.1 現地調査時に確認した動物類の一覧 (2024.10.12)

塗りつぶし部分は四季の庭・水辺の庭エリア

分類群	目名	科名	種名	調査エリア名				確認箇所数	東京都 R L	環境省 R L
				① 四季の庭・水辺の庭	② 産業振興センター	③ 桃園町会エリア				
クモ類	クモ	ジグモ	ジグモ	●				1		
		コガネグモ	ギンメッキゴミグモ	●	●			2		
			ゴミグモ	●				1		
		ササグモ	ササグモ			●		1		
		アシナガグモ	ジョロウグモ	●				1		
			ヤサガタアシナガグモ	●				1		
		ヒメグモ	ヒメグモ	●				1		
		ハエトリグモ	ネコハエトリ	●				1		
			アダンソンハエトリ	●	●			2		
			ヤガタアリグモ	●				1		
貝類 魚類	ニナ	カワニナ	カワニナ	●				1		
	コイ	コイ	モツゴ	●				1		
		ドジョウ	シマドジョウ	●				1		
	ダツ	メダカ	キタメダカ	●				1		
総確認種数				14	2	1		4	0	0
				15				10		

凡例 「●」 現地で確認 「★」 死体・痕跡などを確認 「△」 ヒアリングでの確認

※種名や掲載順については、「日本産野生生物目録（環境庁編）」に従いました。

R L：レッドリスト

表-3.2 13カ年に確認した動物類の一覧 (2012.06.07~2024.10.12)

				調 査 年											確 認 回 数	備 考					
分類群	目 名	科 名	種 名	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年			2023年	2024年			
				夏	夏	夏	夏	夏	夏	夏	夏	秋	秋	秋			秋	秋	秋		
クモ類	クモ	ジグモ	ジグモ											●			●	2			
		タナグモ	クサグモ				●											1			
		コガネグモ	コガネグモ					●										1			
			ナガコガネグモ						●									1			
			ギンメッキゴミグモ						●					●				●	3		
			ゴミグモ															●	1		
			マルゴミグモ																2		
		ササグモ	ササグモ	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●				8		
		アシナガグモ	ジョロウグモ		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			10		
			ヤサガタアシナガグモ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		12		
		ヒメグモ	ヒメグモ															●	1		
		ハエトリグモ	ネコハエトリ												●				●	3	
			アダンソンハエトリ												●				●	3	
			シラヒゲハエトリ												●					1	
			ヤガタアリグモ														●	●	●	3	
			アリグモ														●	●		2	
				アオオビハエトリ															●	1	
総計			1	7	17	1	3	2	3	3	5	3	3	5	8	4	5	10			

凡例 「●」 現地で確認 「★」 死体・痕跡などを確認 「△」 ヒアリングでの確認

※種名や掲載順については、「日本産野生生物目録（環境庁編）」に従いました。

IV. 開花結実植物

1) 「四季の庭・水辺の庭」エリア 20科24種（表-4）

植物に関する調査に関しては、「四季の庭・水辺の庭」エリアのみで実施しました。

開花・結実等が確認された植物は、20科24種（昨年度：19科27種）です（表-4）。「水辺の庭」では、サカキやマメガキなど、鳥類が好む果実の結実が確認されました。これらの果実は未熟であったため、果実が熟す冬期に鳥類の利用が期待されます。「四季の庭」においては、ミツバチなどが蜜源として利用するヤブランの開花が確認されました。ただ、「四季の庭・水辺の庭」全体としては、蜜源となる花が少ない状況です。

表-4 現地調査時に確認した植物類の一覧（2024.10.12）

分類群	科名	種名	開花	結実	調査エリア		備考	東京都 R L	環境省 R L
					四季の庭	水辺の庭			
植物	クサスギカズラ	ヤブラン	●		●		植栽		
		ノシラン		●	●		植栽		
	イネ	ススキ	●			●	植栽		
	メギ	ナンテン		●		●	植栽		
	バラ	キンミズヒキ	●	●		●	植栽		
		ヤマブキ		●		●	植栽		
	クワ	クワクサ	●		●				
	カタバミ	カタバミ	●		●				
	アブラナ	ミチタネツケバナ		●	●				
	ムクロジ	イロハモミジ		●	●	●	植栽		
	ミカン	キンカン		●	●		植栽		
	ジンチョウゲ	ミツマタ		●		●	植栽		
	タデ	ミズヒキ	●		●		植栽		
		イヌタデ	●			●			
	ヒユ	ヒナタイノコヅチ		●		●			
	ミズキ	ヤマボウシ		●		●	植栽		
	モッコク	サカキ		●		●	植栽		
	カキノキ	マメガキ		●		●	植栽		
	ツツジ	アセビ		●		●	植栽		
	アカネ	ヘクソカズラ	●			●			
	モクセイ	シマトネリコ		●	●		植栽		
	モチノキ	イヌツゲ		●		●	植栽		
		ソヨゴ		●		●	植栽		
	ウコギ	カクレミノ		●		●	植栽		
20 24			8	17	9	16		0	0
総確認種数			20科24種						

※種名や掲載順については、被子植物系統グループがまとめたAPG分類体系のうち「APGⅢ」に従いました。
R L：レッドリスト

3. 解析評価

① 地域のトンボ類の貴重な繁殖場所として機能しています。

昨年度から引き続き、「水辺の庭」は日当たりが良い、明るい水辺環境が維持されているため、そのような環境を好むトンボ類が複数確認されました。その中でも特にクロイトトンボについては、ヤゴや羽化個体が複数確認されるなど、「水辺の庭」で繁殖していることが確認されました。地域のトンボ類が繁殖できる環境は、中野マルイ周辺にはほとんどないと考えられますので、この状況が継続的に続くように、今後も地域のトンボ類が利用しやすい水辺環境を維持する方向で計画しています。

② 昆虫相は 13 カ年で 10 目 51 科 121 種となり、さらなる多様化が期待されます。

2024 年の調査で確認された「四季の庭・水辺の庭」の昆虫種は、24 科 28 種と、周辺を含めたポテンシャルの 71%が確認されました。過去 13 カ年では 10 目 51 科 121 種に及び、これまで記録されなかった種も新たに 9 種確認されるなど、地域の生きものの生息環境として、「四季の庭・水辺の庭」は重要な拠点になっていると言えます。今後も昆虫のすみかづくりや、四季を通じ蜜源となる植物を移植するなど、地域の昆虫類が利用しやすい環境づくりを行う方向で検討しています。

③ 個体数の減少が危惧されるスズメや、シジュウカラの繁殖が期待されます。

「四季の庭・水辺の庭」では、13 カ年で 10 科 10 種が確認されています。

今回の調査では「四季の庭・水辺の庭」でキジバトかドバトの営巣跡は確認できました。

中野マルイを含む、地域全域においてスズメやシジュウカラなど、巣箱を利用する種の鳥類も多く見られることから、「四季の庭・水辺の庭」に巣箱を設置することも検討しています。特にスズメについては、環境省が行った調査でも、全国的にかなり減少傾向にあるとされているので、保全を検討しています。

④ 緑の回廊の一部として「四季の庭・水辺の庭」は利用されています。

今回の調査では、昆虫類においては地域にすむ生物種の 71%が、鳥類では 63%の種が、クモ類に至っては 91%の種が「四季の庭・水辺の庭」を利用していました。このことから、地域の昆虫類の多くが、「四季の庭・水辺の庭」を、他の緑地や、繁殖場所への移動の際の中継地点として利用していると考えられます。

また、移動の中継地点としての利用だけでなく、クロイトトンボやオオスカシバ、アオスジアゲハなどの幼虫も確認されているので、繁殖場所としての機能も果たしていることが分かりました。その一方で、調査が行われた 10 月の時点では花で吸蜜する昆虫類はほとんど見られなかったため、チョウ類などの蜜源となる植物の移植も検討しています。

⑤ターゲット種 6 種のうち、1 種確認。

昨年度より、「四季の庭・水辺の庭」の誘致目標のターゲット種として、ナミアゲハ、アサギマダラ、ニホンミツバチ、オオシオカラトンボ、ギンヤンマ、シジユウカラを設定していますが、そのうちのナミアゲハの 1 種のみ確認されました。ターゲット種を設定した昨年度から累計すると、3 種（ナミアゲハ、アサギマダラ、シジユウカラ）確認されています。

これまでの調査で確認されていない 3 種のうち、ニホンミツバチについては、今年度の調査においては、中野マルイの周辺エリアでも記録がなかったため、近隣で営巣していない可能性も考えられます。ただ、ニホンミツバチは巣から 1～2km の範囲内で蜜を集めるので、「四季の庭・水辺の庭」でオミナエシなどのミツバチ類が好む植物を植栽すれば、誘致は可能であると考えられます。そのため、バタフライガーデンのプランターなどで蜜源植物を増やす方向で検討しています。

オオシオカラトンボ、ギンヤンマについては、「水辺の庭」でヤゴの状態で生息している可能性が高いため、水生生物調査の実施も検討しています。

4. 2024 年度の環境保全イベントの報告

地域の生物多様性や、生きもの同士のつながり、中野マルイの環境保全の取り組みなどについて広く知っていただくため、中野マルイ店舗に来館された方に対し、地域の生きものの保全につながる活動や、環境教育を体験するイベントを中野マルイ「四季の庭・水辺の庭」エリアで実施しました。

1) 「四季の庭・水辺の庭」にすむ「いきもの観察会」の実施

2024 年 10 月 12 日～13 日に、中野マルイ「四季の庭・水辺の庭」エリアで行われた「なかまるグリーンフェスタ」にて、中野マルイの利用者の方を対象とした、生きもの観察会を実施しました。

「四季の庭・水辺の庭」内にある、生きものとのつながりの深い植物の解説や、昆虫ビンゴを使った昆虫調査のアクティビティなどを実施し、「四季の庭・水辺の庭」の緑と地域の生きものたちとのつながりについて体感していただきました。2 日間にわたるイベントでしたが、リピーターの方に両日参加していただけるなど、多くの方にご参加いただきました。



観察会の様子

2) レンガ坂商店街の皆さんとバタフライガーデンの設置

「なかまるグリーンフェスタ」内で、中野のレンガ坂商店街の皆さんによる「バタフライガーデンづくり」が行われました。冬越しする生きものたちの手助けになれるよう、今回は秋から翌春に花期をむかえる花を植えました。生きものを呼ぶ取り組みが「四季の庭・水辺の庭」内だけでなく、地域に広がりはじめました。



設置されたバタフライガーデン

5. より多くの生きものに利用される「四季の庭・水辺の庭」を目指して

これまで、生きものの利用の視点から、維持管理について、なるべく手を加えず、自然に近い形を希望し、それに沿った形で管理いただきました。その結果、調査開始時から今日まで、100種を超える昆虫類の利用などが確認されるなど、成果が上がってきています。

一方、四季の庭・水辺の庭が造成されてから10年以上たち、お庭の植栽が大きくなり、日が当たりづらいお庭になりました。そこで、昨年度から「水辺の庭」の水辺周辺の除草・剪定作業を行い、明るい水辺環境を創出していただいた結果、トンボ類の利用が増えるなどの成果が上がってきました。

今後、より多様な生きものが「四季の庭・水辺の庭を利用」できるよう、以下の提案を行います。

1) チョウの蜜源の創出、バタフライガーデンのさらなる充実。

昨年度の8月に行われた「生物多様性NEOフェスティバル」の際に、より多様なチョウ類の誘致を目指して「バタフライガーデン」の設置が行われましたが、設置場所が日陰環境にあるためか、チョウ類の利用が少ない状況にあります。今後、より多くのチョウ類の誘致を目指して、①季節ごとに昆虫類が好む花に植え替えをし、常に昆虫類の蜜源を提供できるようにする、②現在バタフライガーデンが設置されている四季の庭から、比較的に日当たりの良い水辺の庭に移動する、③設置後、どの花によく昆虫類が飛来するか記録し、他のマルイ店舗でも転用できるようにデータを蓄積する、などの取り組みが行われることが望まれます。

また、「水辺の庭」の一角を整備し、在来植生の花々を咲かせることができる「野の花マット」を移植し、蜜源となる植物を増やすことも望まれます。候補地としては、「水辺の庭」の水辺にあり、生きものの利用が少ないヤマブキを抜き、その跡地に野の花マットを移植する方法も考えられます。



2) 引き続き、植物の個体数のコントロールを定期的に行う。

昨年度より、水辺の庭の水草の整理などが継続的に行われた結果、初めてクロイトトンボの繁殖行動が確認されるなど、成果があがっています。ハンゲショウは繁殖力が強いので、引き続き個体数のコントロールを実施していただく必要があります。また水辺の周辺の樹木についても、葉が水面を覆うことがないように、定期的な剪定作業が望まれます。

3) 昆虫類の食草・食樹の充実を図る。野鳥が好む実が生る木の移植。

今年度、「水辺の庭」においてミカン科の植物を追加で移植していただきましたが、より多様な生きものを誘致するために、以下の植物の移植を提案いたします。

例) クワ、イチジク

…クワカミキリなどのカミキリムシの食樹。実は鳥が好みます。(ムクドリ、ヒヨドリ等)

セリ …過去の調査で記録されたキアゲハの食草。吸蜜植物。湿地を好むため場所は水辺が好ましいです。

ヤマハギ…キタキチョウ、ルリシジミの食樹。蜜源となり、様々な昆虫が訪れます。

アケビ …アケビコノハの食樹。ツル性植物なので、壁面緑化等で活用もできます。

- ・野鳥が好む木の実が生る樹木が少ないため、追加植栽を提案します。なお、管理がしやすいよう、低木を中心に提案いたします。

例) マユミ …メジロやコゲラ、ツグミ類などが実を食べる。

コムラサキ、ムラサキシキブ

…メジロや冬鳥のジョウビタキなどが実を食べる。

ウメモドキ

…ヒヨドリやツグミ類、メジロなどが実を食べる

トキワサンザシ

…ヒヨドリやツグミ類、ハト類など、多くの野鳥が飛来するが、棘が生えるため植栽する場所には注意が必要。

4) 昆虫のすみかとなる「落ち葉溜め」、「エコスタック」をつくる。

前回、および今回の調査では、周辺緑地でコオロギ類が確認できたものの、四季の庭・水辺の庭ではコオロギ類は確認できませんでした。コオロギ類などの地這性昆虫が生息する場となるよう、落ち葉溜めや、枝を積んで生きもののすみかとするエコスタックの設置が望まれます。

エコスタックについては、太めの枝（直径7～8 cm程度）を設置すると、地面との接地面に生まれる隙間にコオロギなどが、枝自体にはカミキリムシの幼虫が利用します。

なお、設置場所は「水辺の庭」、水辺奥等が人為的な影響を受けにくく望ましいです。また一部はパーゴラ脇など来園者の目につきやすい場所に設置し、生物多様性に配慮した庭づくりのPR、地域住民参加の観察会等で作成・利用することもできます。

その際は来園者にその意図が伝わるようサインを設置することが望まれます。



落ち葉溜め

5) インセクトホテルを改修し、地域のドロバチ・ハナバチ類を保全する。

昨年度、四季の庭にインセクトホテルを設置し、オオフタオビドロバチの誘致を目指しま

したが、営巣は確認できませんでした。インセクトホテルで使用した竹材を、より多様な口径にするなど、オオフタオビドロバチだけでなく、減少傾向にあるハナバチ類も利用できるよう、改修することを提案いたします。

6) シジューカラ、スズメなど、野鳥の巣箱を設置する。

シジューカラは1日におよそ200匹の昆虫類（ガの幼虫など）を捕らえ、ヒナに与えます。このことから、四季の庭や水辺の庭に巣箱を設置・繁殖させることで、植栽を食害する昆虫類の大量発生を抑制できることも期待されます。また、それだけの獲物を必要とするシジューカラが繁殖に成功すれば、シジューカラを支えるだけの多くの昆虫等が「四季の庭・水辺の庭」に生息していることを広くアピールすることができます。

なお、「3. 解析評価」でも述べたように、スズメについても全国的な個体数の減少が危惧されていますので、スズメをターゲットにして巣箱を設置することも望まれます。

巣箱を作成・設置する際は、イベントの一環として地域住民や利用者に製作してもらい、取り組みのPRにつなげることもできます。

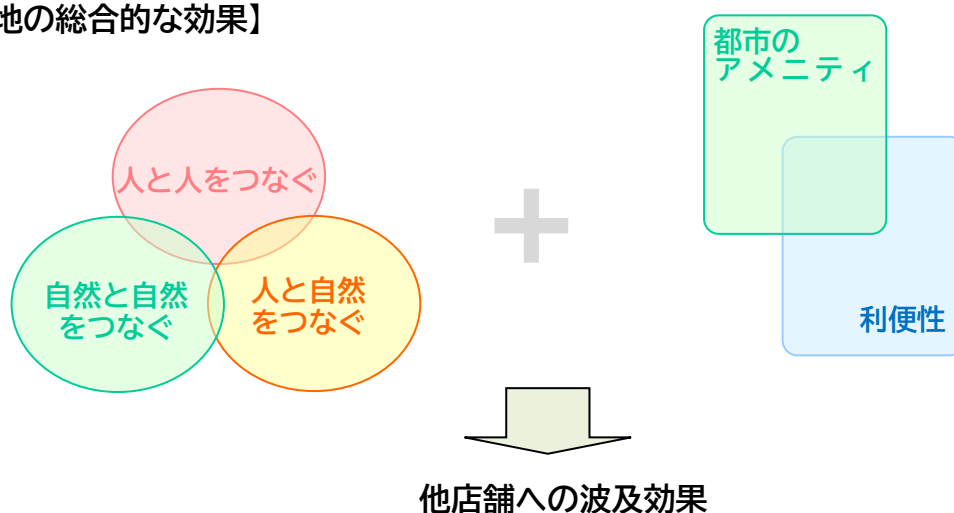


巣箱づくりイベント

7) 緑地の効果を総合的に受け取れる場所ー緑のモデルとなる場所へー

「四季の庭・水辺の庭」は生物多様性の保全に向けた取り組みを続け、13年にわたる調査結果からもその成果を読み取ることができます。しかも、駅前の商業施設という利便性を兼ねそろえ、地域の方が緑地の効果を気軽に、そして総合的に受け取れる場所に成長しました。これからはこの効果をより多くの方に実感していただく取り組みを行い、また、利用者の声として見えるようにすることで、＜生物多様性の保全＞および＜SDGsの達成＞に向けた取り組みのアピールと他店舗への波及効果を目指すことができます。

【緑地の総合的な効果】



【市民協働型イベントで達成できるSDGs】

下記の調査型イベント、親子イベントを市民協働で行うことで、SDGsのうち4、11、15、17の目標に向けた取り組みへとつなげていくことができます。



① 親子向けの定例イベントの実施 ～人と自然、人と人をつなぐ場として～

中野マルイに来店される女性や親子をターゲットに、四季の庭・水辺の庭の植物などを利用したイベントを実施し、地域の生きものへの関心を高めるきっかけとします。

- 例)
- ・四季の庭・水辺の庭の生きもの観察会
 - ・お庭の葉っぱを使ったエコバック作り
 - ・バードフィーダーや野鳥のためのクリスマスリースづくり
 - ・夏休み自由研究で使える、昆虫採集セットづくり



葉っぱスタンプでエコバックづくり



野鳥のためのクリスマスリースづくり



リースづくりの様子



生きもの観察会



バードフィーダー

② 環境保全体験イベントの実施

昨年度より、「バタフライガーデンづくり」や「インセクトホテルづくり」など、来店者の方とともに「環境保全体験イベント」が行われるようになりました。今後も来店された方や地域住民を巻き込む形で環境保全体験イベントを実施し、四季の庭・水辺の庭への愛着を深めていただくことを提案します。なお、これらのイベントが行われた際は、生物調査の際に利用状況を調査し評価を行い、他の店舗等でも利用できるように基礎データ収集を並行して行うことが望まれます。

●イベント例

- ・バタフライガーデンづくり（季節による植え替え・野の花マットの移植）
- ・インセクトホテルづくり（ハナバチ類の巣箱づくり、落ち葉溜めづくり、エコスタックづくりなど）
- ・野鳥の巣箱づくり
- ・野鳥が水浴びできるバードバスづくり
- ・生きもの調査体験イベント（四季の庭・水辺の庭の生きものさがし、水辺の生きものさがし 等）



バードバスに飛来したメジロ



野の花マットの移植

以上

制作：株式会社 生態計画研究所